

令和3年12月16日(木)
18時30分開会
オンラインにて

事務局

定刻になりましたので、始めさせていただきます。皆さまこんばんは。私は鎌倉市健康づくり計画を所管しています市民健康課長の石黒でございます。よろしくお願いいたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。幸いにも現在新型コロナウイルスの感染が落ち着いておりまして、本市におきましても感染者0人という状態がしばらく続いておりましたが、ここ1、2週間はまた感染者が若干名出てきております。オミクロン株の拡大も懸念されておりますので、本日は皆さんにお集まりいただくのではなく、オンラインとアナログとのハイブリッドという形で開催をさせていただきます。ご不便な点もあるかと思いますが、ご協力をお願いいたします。

それでは早速画面をご覧ください。「鎌倉市健康づくり計画推進委員会条例施行規則」でございます。

本日の出席者は15名で、過半数を超えておりますので、本推進委員会条例施行規則第3条第2項の規定により会議は成立しておりますことをご報告いたします。

推進委員会の議事進行は、施行規則第2条第2項にありますように委員長が行うこととなっておりますが、本日は新委員に変わって第1回目ですので、委員長が選出されるまでの間、事務局で委員会を進行させていただきますのでよろしくお願いいたします。

まず、委員の皆様への委嘱辞令でございます。本来ならば、お一人ずつお渡しをしてお願いするところでございますが、大変略式ながら、本日は皆様へ開催通知と一緒にお送りをさせていただいております。ご了承ください。なお、委嘱任期でございますが、令和3年4月30日から令和6年4月29日までの3年間となります。どうぞよろしくお願いいたします。

また、今回の委員会に関して、事前に傍聴希望者の募集を行っておりますが、希望者はいなかったことを報告させていただきます。

続きまして、本日は皆様、初めてのお顔合わせになりますので、委員の皆様方に自己紹介をお願いしたいと思います。本委員会は条例第2条で定めております各分野からご推薦をいただき組織しております。お手元にお配りいたしました委員名簿の順にご所属とお名前をお願いできればと思います。(詳しい事業の

紹介などは会議の中で)

それでは、お願いいたします。

委員

鎌倉生まれ鎌倉育ち、鎌倉ガイド協会で活動しております。今日は午前中鎌倉の石碑の清掃し、ペンキで塗りをしてきました。鎌倉ガイド協会では年間24,000人くらいの方をご案内していきまして、そのうち約半数は小中学生です。コロナ前は月にだいたい100km歩いておりました。歴史に触れながら歩くわけですが、歴史上の人物について想像をしながら歩くようにしています。「歩くことは健康にいいことだ」と言われてもやりません。歩くことは手段であり、目的ではありません。鎌倉のお寺を調べ歩いて回るなどすると自然と歩けるといふことです。よろしく申し上げます。

委員

今年度より委員として委託されました。よろしく申し上げます。

委員

今年の8月9日の職域接種の際に、鎌倉市市民健康課の皆様には大変お世話になり無事に終わりました。ありがとうございました。追加接種についても可能な限り職域での追加接種での対応を基本スタンスとして行っていきたいと思うので、またご指導をお願いしたいと思います。

委員

よろしくお願い致します。

委員

よろしく申し上げます。

委員

よろしくお願い致します。

委員

主に健康運動指導士と会社の方で健康経営度調査の回答の担当をしております。健康経営銘柄の推進のサポートや健康経営エキスパートアドバイザーで、いろいろな会社とコミュニケーションをとっているため、その知見を活かして、本日皆様とお話しできればと思っています。よろしく申し上げます。

委員

いつもお世話になっております。よろしく申し上げます。

委員

どうぞよろしくお願い致します。

委員

よろしくお願い致します。

委員

ワクチン接種では市役所の方に大変お世話になりました。第三回目の際もまたよろしくお願い致します。

委員

多くはストレスチェック機関で働いております。特に労働者の健康管理を一生懸命頑張ってきて来ました。よろしくお願い致します。

委員

前委員長の渡辺先生からご推薦いただきまして、本年度から委員として勤めることとなりました。よろしくお願い致します。

委員

引き続き委員として、よろしくお願い致します。

委員

どうぞよろしくお願い致します。

事務局

続いて、画面をご覧ください。市の関連課で構成されている、鎌倉市健康づくり計画推進委員会幹事課が10課ございます。本日の会議には出席しておりませんが、本会議開催前に幹事会を開催し、庁内での連携を図っております。

そもそもこの健康づくり計画というのが、皆様ができるだけ長く自分らしく生き活きと暮らすには健康であるということが、とても大事な要素の一つになっていて、そのために市民の皆さん一人一人が子どもの頃から高齢者の方まで自分の体や心に目を向けて健康づくりに取り組むことを支援するため関係機関や皆様と連携しながら、支援していくということのために作った計画になります。市役所内にも全部で10課ありますが、いろいろな部署と関わり合いを持ちながら、連携して進めているところでございます。

また、本日事務局の市民健康課職員が9名出席しております。

事前に送付した名簿を参照いただければと思いますので、紹介は省略させていただきます。

次に、委員長及び副委員長の選出に入ります。

施行規則第2条第1項の規定により、委員の皆様の互選により選出することになっています。

どなたか委員長、副委員長の選出をお願いできますでしょうか。

事務局としましては、今までの経過からも、前任の渡辺委員長からご紹介いただきまして、学識経験者である委員に委員長を、副委員長は前回からの引き続きでの委員にお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。

(「意義なし」の発言あり)

(両委員了承)

事務局

それでは、委員長が選出されましたので、この後の進行を委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

委員長

ただ今より、令和3年度第1回鎌倉市健康づくり計画推進委員会を開会いたします。

本日は遅いところ、ご参加いただきましてありがとうございます。私は今回初めて参加させていただくのですが、出身は横浜市泉区です。鎌倉とは比較的近く、大変身近に感じております。来年の大河ドラマでは、鎌倉殿の13人という伝統的な部分で賑わいもありますし、また東海道線の新駅の構想もあり、すごく発展的な部分もあるということで、これまでも神奈川県あるいは県西部の方の自治体の委員を務めてきた経験もありますが、そういうことも活かして務めさせていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

議論に入ります前に、事務局から何か説明はありますか。

事務局

まず資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしております資料は

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 【資料1】 コロナ禍における健康づくりに関するアンケート調査結果
- ・ 【資料2】 令和2年度「鎌倉市健康づくり計画」にかかる取組実績
令和3年度「鎌倉市健康づくり計画」にかかる取り組み予定
- ・ 「鎌倉市健康づくり計画」です。

よろしくお願いいたします。

委員長

ここまででご質問はありませんか。

では、議題に入らせていただきます。

次第に従い、議題（１）これまでの経緯について、事務局から説明をお願いします。

事務局

では、議題（１）これまでの経緯について説明をさせていただきます。

本委員会は平成26年11月から始まり、今年で7年目を迎えました。3年ごとに委員の任期満了による改選を行っており、今回委員を委嘱させていただきました皆様は3期目にあたります。3年間どうぞよろしくお願いいたします。

まず、計画策定までの経緯を説明いたします。計画を策定するにあたり、市民の意識調査を実施し、それらの結果を基礎データとした上で8回の委員会を経て、「鎌倉市健康づくり計画」をまとめました。

では、まず、計画の4ページをご覧ください。

本計画は、国が策定している「健康日本21」、神奈川県が策定している「かながわ健康プラン21」及び、鎌倉市が策定している「第3次鎌倉市総合計画」を上位計画としており、本市の各分野との連携も不可欠なことから、ここでは関係のある個別計画を挙げています。

次に6ページをご覧ください。

この計画は、平成28年度から37年度（令和7年度・西暦2025年度）までの10年を計画期間としています。平成32年度（令和2年度・西暦2020年度）に計画の中間評価を行なう予定でございましたが、新型コロナウイルス感染症の影響下でのアンケート実施は、平時とは状況が異なることから、結果の比較が難しいことが予想されるため、令和2年度第1回委員会において、計画の中間評価を目的としたアンケートは実施しないこととし、中間評価も見送ることとしています。

次に、25ページの「基本理念・基本目標」をご覧ください。

計画の基本理念を「健やかで心豊かに暮らせるまち」とし、基本目標を「一人ひとりの自立（自律）した生活と地域全体の健康づくり」としています。

次に、26ページをご覧ください。

健康づくりの分野を「健康管理」「食生活・栄養」「身体活動・運動」等の7つ、ライフステージを0歳から12歳の「子どもI期」から61歳以降の「高年期」までの5つとしました。各分野、各ライフステージでの現状、課題、そして、これらに対する取組提案や、伝えたい情報等を第3章にまとめました。健康づくりには、生活習慣もライフステージも相互に関連しており、切れ目のない取り組みが必要だと考えています。その切れ目のない、生涯にわたった健康づくりの指針となるよう、工夫しております。

戻っていただき、目次の次のページ、「本書の読み方」をご覧ください。

この計画書を手にした方が、どこから読みたいかを考えました。「生涯の健康づくり」や「家族皆の健康づくり」を考えたい方には、7つの『分野別』を入り口として、また、まず自分のライフステージの部分を見たい方には、『ライフステージ別』を入り口として見られるよう、第3章を二部構成としています。

次に121～124ページをご覧ください。それぞれの項目に指標を設け、目標値を設定しています。平成37年度（令和7年度）の最終年度にはこれらの評価項目一覧にそって評価をしていきます。

次に125～129ページをご覧ください。平成27年度実施分として、本市の関連課で行った事業です。これらの取組みの進捗状況は、毎年、【資料2】のような形で取りまとめています。こちらについては議題3で説明いたします。

この委員会では、主に計画の策定や見直し、推進のための取組み状況の確認や、委員さん同士での情報共有等を行っております。健康づくりは、市での取組みもちろんですが、皆様が所属されている各団体や市民の皆さん一人ひとりが取り組んでいかなければなりません。この委員会の中で、取組みの方向性を随時確認し共有すると共に、行政や団体がお互いに連携を図ることで、健康づくりに取組みやすくしていきたいと考えています。

以上で説明を終わります。

委員長

ありがとうございました。只今、鎌倉市健康づくり計画の内容に沿って、ご説明いただいたが、計画や125～129ページにつきましては、いろいろな取組みの活動に関する指標や事業等についても紹介されているが、何かご質問やご意見等、委員の方でございますか。

もし、参加されている委員の方のご意見があるようでしたら、マイクのミュートをはずしていただければ声が届きます。

委員長

質問がないようでしたら、議題（2）に移ります。

今回の中間評価は以前実施したものとの比較は難しいとのことですが、議題（2）新型コロナウイルス感染症の影響下における健康づくりに関するアンケート結果について事務局から説明をお願いします。

事務局の方をお願いします。

事務局

資料1をご覧ください。

令和2年度第1回委員会において、計画の中間評価を目的としたアンケートは実施しないこととなりましたが、市民のコロナ禍での生活の変化や悩んでいること等の調査を目的にアンケートを実施することとなり、前回の委員会で質問項目について確認を行っていただいたあと、令和3年3月15日から3月31日までインターネット上でのアンケートを実施いたしました。市ラインやツイッターでの通知で協力を依頼し、219名から回答をいただきました。結果をまとめたものが資料1になります。結果についてご説明をさせていただきます。

回答いただいた219名のうち1名は10歳代だったため、性別、年代にのみ計上しており、問3以降の青年期、壮年期、高年期に分けた集計には計上しておりません。また、青年期は26人と人数が少なくなっております。また、H26年度に健康づくり計画策定の前に行った健康づくりについての意識調査は無作為抽出で行っており、実施方法、実施人数が異なりますので、単純比較はできませんが、参考までに、下に平成26年度のグラフを掲載しているものもございます。

問3から順にご説明させていただきます。

問3は「最近の健康状態はいかがですか。」という問いに対して、青年期は「あまり健康でない。」「健康でない。」と答えた人が他の年代に比べて多くなりました。

壮年期は「健康である。」「まあ健康である。」と答えた人が他の年代に比べて多くなっています。

高年期は「健康である。」「まあ健康である。」と答えた人が全体の9割を占める結果となりました。

次に問4の1について「今年度鎌倉市や職場で血液検査を行う健康診査を受けましたか。」という問いに対しては、青年期は「受けた。」と答えた人が他の年代に比べて少なくなりました。「毎年受けていない。」と答えた人が31%で他の年代の2倍以上の割合になっています。

次に、問4の2について、先程の質問に対して「受けていない。」と答えた人に「それは新型コロナによる影響ですか。」という質問について、受診を見送った人が青年期、壮年期に比べて高年期が多かった結果になりました。

問5について「検診歯石除去、治療以外に定期的に歯科医院に通院していますか。」という問いに対して「はい。」と答えた人が青年期で42%、壮年期で38%、高年期で67%です。

一方で「定期的な通院をコロナ禍でやめた。」と答えた人が青年期で23%、壮年期で15%、高年期で9%いました。

問6について「献立に主食、副菜が揃っていますか。」という問いに青年期の「毎食揃っている。」「2食揃っている。」と答えた人合わせると39%、壮年期が合わせると64%、高年期が86%となっております。

問7について「食事の内容や食べる時間、回数等、食生活に対する意識がコ

「コロナ禍以前と比べて変わりましたか。」という問いに対しては「気を付けるようになった。」と答えた人は青年期で46%と、他の年代と比べると多くなりました。

「食生活が乱れてきた。」と答えた人は青年期で8%、壮年期で9%、高年期で4%となっております。

グラフの方が、正しい数値になるので青年期が9%と書いてありますが、8%に修正をお願いします。壮年期の方は8%ではなく9%が正しい数値となります。

問8の1「普段の生活や仕事の中で体を動かしている時間は1日平均どのくらいですか。」については「30分未満」と答えた人が、青年期が最も多くて19%、壮年期が18%、高年期が11%となっております。

問8の2「前の質問で運動量はコロナ禍以前と比べて変化しましたか。」については「減った。」と答えた人は青年期で54%と最も多く、次いで壮年期が47%、高年期で41%となっております。逆に「増えた。」と答えた人が高年期で18%と最も多く、次いで壮年期で14%、青年期で8%。

次が「変わらない。」と答えた人は青年期で38%、壮年期で39%、高年期で40%とほぼどの年代も変わらない結果となりました。

問9「定期的にウォーキングをしていますか。」については「コロナ禍以前からしている。」と答えた人は青年期だと15%、壮年期は29%、高年期は43%です。

「コロナ禍以降始めた。」と答えた人青年期と壮年期で18%、高年期で16%となりました。

「コロナ禍でやめた。」と答えた人が青年期で15%、壮年期で1%、高年期で12%です。

「コロナに関わらずしていない。」という人が青年期で最も多く58%、次いで壮年期で48%、高年期で28%となっております。

問10「ストレスを解消できていますか。」について「あまりできていない、」「できていない。」と答えた人は壮年期が最も多くなりまして、合わせると53%、次いで青年期が38%、高年期が28%となっております。

問11「朝すっきり目覚めるのは週にどれくらいですか。」については「週に6日～7日」と「週に3日～5日」と答えた人を合わせると青年期で54%、壮年期で56%、高年期で76%となりました。

問12「普段地域の人とどのくらい付き合いをしていますか。」については「していない。」と答えた人は青年期で8%、壮年期で6%、高年期で7%となりました。

問13「地域での活動に参加していますか。」について「活動休止等で参加できていない。」という人が青年期で19%、壮年期で13%、高年期で10%となりました。

「定期的に参加している。」「ときどき参加している。」という人を合わせると青年期で12%、壮年期で27%、高年期48%いらっしゃいました。

問 14 については、コロナ禍の今、健康づくりのために取り組んでいることについて自由記載をしていただいたものになります。事務局の方で内容を見まして、運動に関すること、食事に関すること、ストレス解消に関すること、生活リズムに関すること、その他の項目に分けまして、点数で表したものが上の表になります。

運動に関することが比較的多く挙がっておりました。その下の方には、すべての回答について原文のまま載せておりますので、参考に見ていただけたらと思います。

全体を通してみますと、コロナ禍が健康づくりに影響がしているのは明らかですが、日ごろの健康への意識や関心は高まっているところもあります。また、ストレス解消や地域での活動がしにくくなっている傾向があると考えられます。

これらの課題に対して、できる限り今年度の取り組みに反映をしながら実施をしております。

委員長

コロナ禍における健康づくりに関するアンケート調査ということで、結果について報告していただきました。今回はインターネットでの調査ということで平成 26 年度の無作為抽出による比較的規模の大きい調査に比べますと、調査の規模が少し小さい。特に青年期が 26 人と少ないので、なかなか一般的な結果とは言えないかもしれませんが、コロナ禍によって、やはり受診の抑制や、運動等、これらはリモートワークやスポーツジムなども閉まってしまい行けないということも一般的に影響はしているのではないかと思います。

また、一方で個別の意見を見ると、こちらに書かれている言葉の内容からは、ストレス解消のために運動、コロナ対策をしながら身近でできる運動に取り組んでいるというような様子も伺えます。

何かご意見等ございますか。

委員

おそらく今回、取ったデータについては、先生もお話しした通り n 数（サンプル数）が非常に少ないものであるということで、ある程度参考にするといった参考値として見ていくものとしてはすごく良いと思います。

ただ一つ危険なのが、これが正しいのであるということで走ってしまうと、少し実態とは離れた結果にもなり得るので、参考としてご活用いただくぐらいのものがいいと思っている。

1 件質問ですが、データの取り方について、青年期、壮年期、高年期といった形で大きく 3 つに分けられていますが、おそらく青年期 20～39 歳で学生から社会人といった形で、またフェーズが違ったりですとか、壮年期についても 40～60 歳で働き盛りの 40 代と 50 代と、定年を考える 60 代で、また属性が違っ

たりですとか、高年期に関して言えば、今アクティブシニアが非常に多い中で、60代は非常に若い、まだ現役の方もいらっしゃる状態で、データとして一つにまとめてしまうのは、少しもったいないと感じます。

もし、可能であれば10代別に、性年代別に取れると次年度から非常に良いと思っております。

おそらくこのデータを活用することで、正しい施策を考えるための良い材料になると思う。ですので、そちらについても可能であれば、来年、実態調査、無作為に抽出するにしても、年代別できちんと分けて、正しい数値が出るような、きちんと比較し得るような形でデータを抽出して、施策の本来の我々が進めて行きたいような、本当に必要な人に届いているのかわかるようなデータ設計ということを検討していただけると非常に良いと思いましたが、先生方いかがでしょうか。

委員長

はい。只今の委員の実際に中間評価のように、もう少し年齢区分を細かくして調査した方が良いのではないかとということで、今回もアンケート調査の結果の最初の部分で40歳代、50歳代、60歳代、70歳代だいたい20%くらいで割合があるのですが、少し若い人達が10%ほどと割合も少ないということで、確かにn数が多くなるようでしたら、もう少し年齢区分を細かくした方が良いと言えるのですが、只今のご意見で何か他の委員の先生方からコメント等ありますでしょうか。

事務局からは何かありますか。

委員

年齢区分について、黄色の鎌倉市健康づくり健康計画の6ページを開いていただくと、平成26年にこの年齢区分で始めてしまったもので、そちらに引っ張られているというのがあります。この時の結果と正常時とコロナ時との比較をしているのが今回のデータだと思うので、その辺りを尊重しながらも、来年のデータの時は、こちらの比較と例えば10歳刻みのデータを出してみる等、分析の方法を比較用といろいろ考えていても良いのではないかと思います。

私が言うのも変ですが、市民健康課の保健師達さんは結構いろいろな施策をしていて、忙しく大変であり、それらに加えて負荷を加えていくのはかわいそうかなと思います。私も最初はどんどん行えばいいと思ったのですが、これをフォローするのはものすごく大変で、そうするとその辺りの強さとか弱さとか施策をどのようにするのか非常に大きな課題ですし、またコロナが始まりこの2～3年というのは大変な状況ですので、その辺りをどう立て直すかというのも課題なので、広く考えていければいいと思います。

どうでしょうか事務局の皆さんは。

事務局

ありがとうございます。では挙手されている委員お願いします。

委員

今の委員の話の通りだと思うのですが、やはり最初にアンケート調査の実施期間や、無作為とはいえ219名という母数など、短い期間で人数も少ないというところで、データの信憑性というか次の施策に活かすべき内容というのが、なかなか判断するのに難しいのと、アンケートを行なった上で、事務局としての考察、今後こういう風に行きたい等、結果はこうでしたというような内容も欲しいなと思いました。

事務局

ありがとうございます。今回まとめたのは、こちらに基づいてまとめていますので、各期、ライフステージごとにまとめています。ただ今、委員からお話がありましたように、それぞれの年代ごと数がわかればという意味では、元々のデータはそれぞれ年代別に持っておりますので、それはデータとして把握をして見るということ、ライフステージごとに見ることもできるし、年齢ごとに見ることもできるようなまとめ方ができると思います。そちらについては、また次回アンケートを取る機会があった時には、考えていければと思います。

もう一つ、やはり健康づくりの施策を展開していく上で、さすがに10歳刻みでその年齢層にピンポイントに当たるような施策を展開していくというのは、なかなか難しい状況になっています。国の計画や県の計画を見ても、やはりライフステージごとにいろいろまとめて、そのライフステージに対して施策を打っていくようなやり方で進めている関係で、次の計画どのように作っていくかは、しばらく後の話になるのですが、そちらも少し見せながらまとめていければと思っております。

今の委員からのお話につきましては、なかなか最初に事務局と委員長が話していた通り、数が少ないので分析というところまでは行かない。最初は比較した考察等も加えていたが、単純にこのn数では比較してはいけないのではというお話もいただきまして、実は平成26年のアンケート結果と比較したような考察は少し削除したというか、今回は掲載をしなかったという経緯があります。

委員長

他に何かありますか。

委員

特にこの実施した時期が3月15日から31日ですから、約9か月前で、ワクチン接種がようやく医療従事者に始まった頃です。まだ世の中が不安でいっぱいだった頃だと思うので、このデータそのものを否定してはいけないと思いますが、現状変わっているところもあることを念頭におくべきだと思います。一方で後半の自由記載のところですが、このような大変な時にもこのように行って

いるという好事例を挙げるということはできると思うので、大変な時だったが頑張っている人もいたが、一方で若者が運動不足である等、そのくらいのまとめにしておくとういと思えます。

委員長

はい。ありがとうございます。副委員からも、元々は鎌倉市健康づくり計画の青年期、壮年期、高年期という区分けに沿って今回コロナ禍の頃のアンケートも一応まとめて、前回のものと比較可能にしたというようなことがあるということです。あと、当然今回調査数が少ないということもあるので、そのような区分でしか分けられなかったのかなという印象です。

特に個別の意見等なかなか積極的な部分もありますので、今ちょっとコロナ禍が落ち着いたというのもあると思うので、外出や外出等されている方もいらっしゃると思うのですが。

また後程、議題に健診等の受診状況等の報告もあるので、そちらも含めて評価をしていただきたいと思います。

他にご意見等ございますでしょうか。ないようでしたら次に進みます。

委員長

では、議題（3）令和2年度実績報告及び令和3年度取り組み予定についての説明をお願いいたします。

事務局

【資料2】をご覧ください。資料2（R2）が昨年度の実績、資料2（R3）と書かれたものが今年度の取り組み予定になります。

こちらにまとめている事業は、市の関連課で行っている健康づくりに関する取り組み事業の一覧として、具体的にどのような事業を行っているのかイメージいただけるかと思えます。

（R2）の昨年度の実績の、達成状況についてですが、事業目的・実施回数・参加人数・効果等を考慮し、該当するものを次の1～4から選んでいます。

達成状況の目安は次のとおりとしています。

1. よくできた …(例)当初予定の80%以上できた
2. だいたいできた …(例)当初予定の50～79%できた
3. あまりできなかった …(例)当初予定の30～49%しかできなかった
4. できなかった …(例)当初予定の29%以下しかできなかった

これまでの委員会においても、達成状況の評価がわかりにくいというご意見や、担当者の主観的な評価なのではないかとのご意見をいただいております、そのあたりが改善できるように、達成状況の左列の達成状況の根拠を可能な限り数値で記載し、すべての数値化は難しいが、なるべく数値で評価できるよう

に行っております。また、各課での評価後に、関係課長が一堂に会して、全体を通して大きなズレがないか確認を行いました。

全体としてみますと、対面でのイベントや啓発ものは令和2年度は中止となっているものが多くみられます。実施方法を変更したりなど工夫をして実施したケースも見られました。令和3年度ではオンラインに切り替えての実施や、少人数制にしての実施予定などもあがっています。

また、幼児健診や成人健診については、期間や実施方法を変更し、受診率が下がらないように工夫致しましたが、受診率がやや下がっているものも見受けられましたが、大体横ばいというのも多くありました。しかし一方で、妊婦の歯科検診など、受診率は上がったものもごさいます。健診については、目標値との差が大きいものが多く、今後も課題としてあげられると考えております。

いくつか事業の詳細内容についてご紹介をさせていただきます。

事務局

今年の6月から古都をトコトコ鎌倉健康歩イントという事業を開始いたしました。こちらにつきましては、いわゆる健康ポイントというもので、具体的にはスマホアプリを活用し、ウォーキングをするとポイントが貯まり、そのポイントを景品等と交換して、楽しみながらウォーキングを習慣化していただき、少しずつ健康づくりを行っていただきたいというような事業になります。

実はこの事業は今御覧いただいている資料右上R2と書いてある7番のところ鎌倉ヘルシーポイントとありますが、そちらを従来行っておりました。こちらは平成30年3月から令和2年の9月まで実施しておりました。最終的には大体4,000人くらいの方が登録されまして、皆様楽しんでいただきましたが、いろいろ課題があり、なかなか市民の方に周知していただくことができず浸透しませんでした。また、4,000人くらいご登録があったのですがアクティブユーザーが20%程度に留まってしまっており、結果としては800人くらいの方がその事業に参加していたという感じでした。

また、歩いていただいて健康になっていただくというところをどのような形で見える化するかということで、具体的には医療費がどれくらい削減されたかというところまで踏み込みたいと考えていたが、参加者数が非常に少なかったため、データを研究分析数会社に依頼したが、少なすぎて信頼に値する分析ができないと言われてしまった。外部に委託して実施した事業だが、アプリが使いづらいとの声を市民の方からいただいた。また、開始当初だがバッテリーの減りが早いというご意見があり、実用に耐えないということで、申込みいただいたが、実際にはご利用いただけなかったという方が、結構いらしゃいまして、その後改善したのですが、初期についたイメージが払拭できずアクティブユーザーが増えなかったという結果でございました。

また、景品について良いものをたくさん準備すれば皆さん参加してくれるの

ではないかと考えたが、やはり良いものでもある程度の数が揃えられず、限られた予算の中で実施するため抽選制にしたところ、抽選だと当選するかわからないということで、そのような理由もあり皆さん参加するところまで結びつかなかったというようなご意見もありました。

こうした課題等を解決するため、少しマイナスイメージもあったので、そのよう払拭するためにリニューアルして、今年の6月から新たなポイント偉業を開始しました。

今回のポイント事業では、新しく成果型の報酬というものを取り入れる形になり、今までは委託事業者は結果がどうであれ、それなりのお金をもらえるという形だったが、今回は成果に応じて委託料を変化させる形になっています。具体的にその成果というのが、参加者の人数です。その参加者の人数がある程度揃えば、鎌倉市国民健康保険にご加入の方のみになるが、この方たちの医療費が実際にどういう風な形で変化したかというところで医療費の削減効果も比較しながら、実際の委託料をお支払いする形です。

これですと、企業さんの方も頑張れば自分たちの委託料が増えるので、一生懸命、我々と協力してくれると思いき、そのような設定にしています。

元々今回、プロポーザルという形で公募し、いくつかの会社の中で一番優秀だった会社と契約をした。ケンコムというアプリがひさやま元気予報という機能を持っていて、具体的には国民健康保険加入者の特定健診の結果があらかじめ入力されており、その内容に応じてその方の健康状態が晴、曇り、雨のように見える化されている特徴がある。自分の健康状態を見ることよって、将来の健康維持や向上に少しでもいいので行動変容に結び付けたいと考えています。

課題の景品について、豪華路線は辞め、皆さん少額でも確実にもらえる方を選ぶという研究結果もあるので、委託業者と相談し、頑張れば頑張った分だけ確実にもらえるという形にしています。以前は、半年に1回の抽選で一番いいところだと、鎌倉シャツのギフトカードがもらえるなど、豪華な設定にしていたが、今回は1ヵ月間頑張っていただくと大体100円～200円くらいのポイントが貯まって、アマゾンやセブンイレブンで使えるナナコといったポイントに変換できます。額としては非常に低い金額だが、ただ頑張った分だけ確実に入るということで、効果を望んでいます。

実際6月からスタートし、11月時点で1,600人くらいの方がご登録いただいています。また、アクティブユーザーも80%となり、継続してご利用いただいています。そういった点でも今回の事業はスタートとしてはまずまずだと思いますが、コロナ禍ということもあり、開始した6月頃という時期は、コロナに対してどのような対応すればいいのかと非常に不安だった頃だったため、大々的にPRができませんでした。今後は、ワクチン接種が進み、感染症に対応していけばいいかというものはっきりしてきたので、より積極的に情報発信をしていきたいと思っています。

来年度には、チラシ等できあがるので、もっと市民の方に参加していただきたいと考えております。ぜひご協力いただける団体様等ありましたら、よろし

くお願い致します。

事務局

資料2R3の2ページ19番「産前産後サポート事業」「妊娠中のママフェア」「産後のママフェア」についてお話いたします。

本年度8月から新しい委託事業として開始しています。対象が妊娠中の方、産後4ヵ月までの親子の方です。このコロナ禍で妊娠中の教室、産後みんなで集える場の人数や開催の制限等をされた影響で育児主義を獲得できずに不安なまま生活をしている人、他の親子に会う機会がなく孤独感を抱えている人、また里帰りや実家のお手伝いを頼もうと思っても移動制限があつて頼めなかったり、元々実家との関係が悪く頼むことができなかつたり等、支援不足のため、どうにかギリギリ家族だけで生活をしている人など、育児の孤立、漠然とした不安感を抱えている人が多いのが現状です。

このような現状から、妊娠、子育てでの孤独感を軽減するため、専門職に相談ができたり、他の親子や地域のスタッフと会える場、親子の心と身体の健康のための場の提供ができればと思い、教室を開催しています。

妊娠中のママケアは月に1回会場での対面とオンラインを交互に行っております。医学療法士と助産師が妊娠出産における身体の変化や生活動作の負担を軽くするヒントなどを実践を交えてお話しています。産後のママケアは月に1回バランスボールを使うエクササイズを行っております。赤ちゃんを抱っこしながら揺れると、赤ちゃんが泣き止んだり眠ってしまうので、お母さんも自分の運動を取り組みやすくなり、そこがよいところであり、骨盤底筋にも効くので、産後の身体には特に良い運動になっています。自分のための時間が持てたという達成感にも繋がるので忙しい日々の中でも前向きな気持ちになって帰っていただいています。

それぞれホームページやLineで周知をしています。回を追うごとに参加の申込者数が増えて、産後のママケアの方は特に定員10組なのですが、倍以上の予約が入り、キャンセル待ちになっているような状況です。

コロナが怖くて外に出られないという声も今まではありましたが、今は誰かと話したい、外に出たいという声が高まっていると感じています。

事務局

資料2R2の26をご覧ください。育児教室について記載があります。こちらは、両親教室、妊婦教室、初期の離乳食教室は5ヵ月のお子さんと保護者向け教室、6ヵ月の育児教室は6ヵ月のお子さんとお母さん向けの教室等を鎌倉市では行っている。そちらもコロナの影響で一部規模が縮小している現状がありました。それを受けて市の方では動画を作成し、家からでも見ただけのようということで配信を行っております。今、動画を共有させていただきます。

こちらは、離乳食教室に関する動画になりまして、YouTubeで鎌倉市の公式チャンネルがあり、そちらに子育てに関する動画を配信しております。実際には

妊娠期に向けた妊婦さん向けの動画を3本、離乳食に関する動画を4本、6ヵ月前後のお子さんの発達に関する動画を2本上げておりました、合計で2万再生くらい再生されているといったものになります。特に妊娠期の方に向けた動画が多く再生されておりまして、需要が高いと感じています。こちらは鎌倉市の公式チャンネルをYouTubeで検索していただくと見ることができますので、ぜひ皆様にも御覧いただけたらと思います。

次に資料2、27番「生活習慣病改善プログラム」、34番「鎌倉シニア健康大学」、36番「生きるを支える実行委員会」等では、講座、対面での教室の他にオンライン配信を行ったり、またはオンライン配信のみで行った事業になります。若い方には比較的オンラインでも参加いただけるが、高齢者の方ですと、やはりオンラインの参加はハードルが高いと感じます。オンラインでも参加できますという環境は整えていますが、実際参加者はそこまで多くないという現状があり、その辺りが課題と感じています。

資料2 R 3、49番「特定健康診査」をご覧ください。こちらが鎌倉市の国民健康保険に加入している方で40歳から74歳の方に実施している特定健康診査ですが、令和3年度はこれまで受診したことがない方や、毎年受診していただけていない方を中心にAIを活用してタイプ別の受診勧奨ハガキを作成し、2万人に対して受診勧奨を行うことで受診率の向上を図るといった取り組みを始めています。こちらが受診勧奨ハガキですが、タイプがいくつかあり、それぞれAIが診断したタイプによって送られる内容が異なります。すでに送り始めていて、少しでも受診率向上に繋がればいいなということで始めています。

以上で説明を終わります。

各委員さんたちからもおひとりずつ、それぞれの取り組み状況、コロナ禍において工夫されている点、苦慮されている点や課題、今後の取り組み予定など共有できることがありましたら、お話いただける範囲で、ご紹介をお願いしてもよろしいでしょうか。

委員長

ありがとうございました。令和2年度、3年度鎌倉市健康づくり計画推進に関する取り組みの評価、令和3年度については現状と実施予定ということで紹介いただきました。大変内容も豊富で、例えばトコトコ鎌倉健康歩イントを成果報酬型にしたり、国保の保険者との共同でということや見える化したりすることで工夫もされている。産後の妊婦さんの事業もコロナ禍の対策を取りながら続けていくことで、閉じこもりにならないような取り組みをやっているとのことです。

また、若い人にはウェブ教材や動画の内容というのは大変役立つと思うが、

高齢者についてはオンラインでの参加は難しいというような課題もありました。

最後に健診につきましては、比較的横ばいで、特定健診については AI を使った個別化した内容の案内ということで、ナッジ（行動経済学）的に拝見したところ、受診しないと損をしますよというわかりやすい内容でした。ぜひ従来のハガキの健診に比べて AI を使うことによってどの程度受診者が増えたかというところも評価を続けていただきたいと思います。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

委員

女性の健康や対策素晴らしいと思いながら、見ておりました。その中で 1 点質問があります。鎌倉ヘルシーポイントについていくつか質問です。こちら対象が 20 代以上、メインターゲットが 30 代から 50 代ということで、目標歩数の KPI（重要業績評価指標）が 6,000 なのですが、鎌倉市民で考えると、20 代から 60 代まで約 7 万人いる中で数値が若干低いと感じました。

かつ、こちらの対象が国民健康保険加入者ということで、おそらく鎌倉市の住民情報で正規はわからないが、企業に属されている方が非常に多いのではないかと考えています。国民健康保険加入者に絞られているのか、企業の社会保険加入者でもこちらが受けられるのか。達成についても国が推奨する男性 7,000 歩、女性 6,000 歩と記載があるが、国が健康日本 21 で推奨している歩数は男性 9,000 歩、女性 8,500 歩で最近ですとスポーツ庁が推奨しているのは 8,000 歩であり、その辺りで乖離があると思います。この辺りの説明もしていただきたいです。

もし、可能であれば参加している 4,127 名の属性、例えば 30 代から 50 代の方々を想定していると思うが、実は蓋を開けてみたら 60 代が多かったや、何か参加している方の属性を教えてください。

委員長

はい。かまくらヘルシーポイントについて国保加入者以外、非保険者の方でも参加できるのか。

目標の歩数についても実際の健康日本 21 と歩数について違いがあるが、そちらについて。

3 点目としては、これまでの参加者の年齢層 30 代から 50 代ということで、特に年齢層について、事務局で回答をお願いします。

事務局

今、お問い合わせいただいた 3 点について事務局から回答いたします。

まず 1 つ目について、こちらは社保、国保以外の方もご参加いただくことが可能です。20 歳以上の鎌倉市民ということが参加条件となっておりますので、国保以外、社保の方も含めて、ご参加いただいております。

ただ、今年から始めております古都をトコトコ鎌倉健康歩イントにつきまし

では、国保特定健診の結果を天気予報のような形で表示されるので、鎌倉市の国民健康保険にご加入されている方しかデータがないので、国保の方しか自動的に表示されないという仕組みになっています。ただ、社保の方もご自身で数値を入れていただければ、健康天気予報の表示機能を使えるようにはなっています。

2つ目について、国の基準について、申し訳ございません。こちらは少し昔のデータを使いながら、当時分析を依頼していた事業者さんと調整して計上した形になっていまして、それが何に基づいているというのが、手元にデータがないので、こちらは後でお調べして皆様にお知らせいたします。

最後に、ご参加された方の属性について、私ども働き盛りの方を特に頑張っていたいただきたいとして30代、40代、50代の方々にご参加いただければと考えておりました。

かまくらヘルシーポイントは、昨年9月に終わってしまった事業ですが、30代から50代の方で、全体の72%占めるぐらいの参加率となっています。個別に申し上げますと、男性女性合計ですが、30代は全体の16.1%、40代は27%、50代は28.5%で、合計すると約72%になります。なので、ターゲットとして捉えていた方々には、きちんと届いていたとは思いますが、全体の人数が少ないという点では反省しないといけないと思っています。

委員長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

委員

はい。ありがとうございます。ちなみに、契約しているケンコムさんに達成、契約状況に応じた支払いをされるということですが、国保ではない人が登録しても同様にケンコムさんにお支払いするという契約ですか。

事務局

はい。そちらの契約ですが、最初の段階ではおそらく、それ程、医療費に影響は出てこないだろうというような形になっていて、とりあえずは国交省やいろいろなところが1歩あたり何円という形で、医療費抑制効果があるというものをいくつか出しているので、そういったものを利用して参加前と参加後でどれぐらい歩数が増えていて、それによって医療費がどれぐらい下がったかという推定値で最初はスタートしていきたいと考えています。

ただ、ある程度年数が経ち、実際にどれぐらい医療費が抑制効果が出てくるかはっきりしたら、そちらの方にシフトしていくということも考えています。

委員

ありがとうございます。さらに深堀なのですが、今年目標KPIが6,000人だったと思うのですが、着地が4,127人でギャップが約1,800人なのですが、こ

の結果をもって次年度の目標値を上げていくと思うのですが、対象7万人に対して、目標値が6,000人は弱いと思います。今後、20代から50代を対象にするのであったら、ウォーキングイベントとしては20%、可能であれば80%取れたらいいと思う。そこまで高めていくという方針はありますか。若干、無難な数字に見えていて、その中で4,127名達成されたといっても、本当に鎌倉市の人口でいうと一部であると感じてしまいます。

スマートフォンアプリの良いところは、20代から60代の方であれば、ほぼ1台持っているであろうということと、時間も場所、自身のタイミングでできるというので、おそらくもっと参加率が目指せる施策で、本当に素晴らしい良いものであると思うので、ぜひこの部分の活用を検討していただきたいと思います。

事務局

ありがとうございます。志は非常に高く持っておりまして、多くの方に使っていただきたいという気持ちはあります。しかし登録者数の伸び悩みもありますので、そのところを皆様の知恵をお借りしながら、ご協力いただきながら進めて行ければと思っております。

従来のヘルシーポイントと新しい古都をトコトコ鎌倉健康歩イントとが少し混同したような形で説明してしまっているのですが、6,000人に対して約4,000人という成果が以前行っていた事業の方です。今行っている事業が登録者がそのままスライドした形ではなくて、また0からご登録いただくという形になりましたので、11月の時点で1,600人くらいです。

委員がおっしゃっているように、市の人口からするとまだまだ少ないと思いますので、今後伸ばしていけるように頑張っていきたいと思います。

委員長

他に、市役所の事業に関して意見のある方いらっしゃいますか。

委員

よろしいでしょうか。すこしわからなかったのですが、スマホを持って歩くということですが、危険で事故の元にならないですか。鎌倉には車道と歩道の区別がないところがほとんどで、それが市民の生活道路となっています。

スマホを見ながらぶつかったりする姿を見っていますが、歩きスマホは絶対にダメです。市民の命に関わります。

事務局

歩きスマホ、確かに危険であることは私どもも認識しておりまして、こちらのシステムはスマホを持っているだけで大丈夫ですので、画面を常に見ながら何か操作するという必要はないものです。スマホをポケット等に入れておいていただいて歩くと、その歩数をスマホがカウントしてくれ、それに応じて

ポイントが貯まるということなので、私どももそのポイント事業は推奨しているが、見ながら歩くということはやめてくださいということは周知徹底していきたいと思っています。

委員

目新しいものではないが、それでインセンティブが付くということですね。ニンジンぶら下げて歩くという感じなので、あまりおもしろくないと思います。

委員長

はい。他にご意見等ございますか。

委員

少し議論の方向性をしっかり考えた方がいいと思いました。というのは、行政が行わなければいけないことは、まず法令で決められたことを義務としてやらなければいけないことがしっかりできるということと、これはコロナ禍でもやらなければいけないと思います。もう一つは、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチというのがありまして、コロナ禍であったとしてもハイリスクアプローチはしていかなければいけないですね。一方で、こういったポイント事業はポピュレーションアプローチなので、それができるということは法令やハイリスクアプローチをしっかりと行った上で、市民の理解を得た上でやらなければいけないことなので、順番的には最後、その辺りを考えて行わないと本末転倒になってしまうので、特にハイリスクアプローチは市にしかできないことが多いので、その辺りをしっかり議論して、有効性というか正しいことを皆で助け合うということがこの活動には意味があるといった、その辺りを議論しないといけないと思っています。そういう意味でぜひ検討していただきたいことは、評価基準の中に法律で行わなければいけないことだと明記していただきたいです。それから、その次にやらなければいけないことはハイリスクアプローチなので、子どもや育児を助ける、老人の保護はやらなければいけないことですので、そのようなことをしっかりとやると鎌倉市はきちんと表明した方がいいです。その上で、しっかりできたかどうかは評価した方がいいです。

その上で、ウォーキングを行うのはいいと思う。ぜひやって欲しが、やらなければいけないことをした上で、行わなければいけないと思います。

よく優先順位を考えていただきたいと思います。

委員長

ありがとうございました。公衆衛生学的なハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチがありまして、なかなかポピュレーションアプローチ全体を動かすのは難しいと思います。確かに大事ではありますが、まずは国で決められた事業の方を優先して行っていくというような、限られた予算の中で関連

団体の協力を得ながら行っていくとよいと思います。

今は、コロナ対策の方が優先順位としては高いと思うので、優先度を付けながら、限られた予算の中で行っていくのが良いと思います。

医療費削減の話について、なかなか単年度の研究だけで医療費削減というのは難しいです。ときどき自治体から頼まれるのですが、難しい話で、やはり長期的な視野で行わないといけないと思うので、すぐに医療費抑制を示すということは考えない方がいいというか難しいと思います。

時間も遅くなってまいりましたので、先程のスマホを見ながら歩くということは危険ということは貴重なご意見だと思います。事業を行うのに当然安全確保をきちんと行いながら、今回はコロナ対策を取りながら事業を進めて行くかたは難しいです。特に県の保健所等、市町村によってはコロナ対策の方が手一杯で、なかなか他の県事業が進んでいないというのが実情の中、鎌倉市は比較的他の事業も対策を取りながら行っている印象を持ちました。ぜひ、必要な事業は途切れることなく継続していただくのが良いと思います。

最後時間押しているのですが、特にこれだけは言っておきたいということがございましたら、ご意見、一言手短なご発言いただけたらと思います。

委員

冒頭に言いましたが、歩くのは手段であって目的ではないと思うので、健康のために歩く、目的があるからやるのであって、何かをするために歩くということで、少しキツイ言い方ですが、ポイントだけでは市民は歩かないと思います。もっと内面的な心の中で動かせるようなものがあると良いなと思います。

委員

学校の方でも今、コロナの状況で感染対策をしながら、健康づくりに取り組んでいます。それに加えて、気候の面でも夏のとても暑い状況の中で、校庭で運動するのは厳しい状況にあるので、体育間にエアコン等を設置していただき、子ども達の体力づくりを推進したいと思っています、そのような場面で市にお願いしたいと思っています。

委員

いろいろ参考になる話を聞かせてもらいありがとうございます。鎌倉市もやることがたくさんあり過ぎて、ご担当の皆さんも負荷が高いということがよくわかりましたし、我々企業としても先程リスクのお話が出た通り、そのリスクの山を低い方に動かすような活動を目標・目的を持って、やっていければと思いました。やはり法律に基づいて、委員からお話がありました通り、明記していただき、それに基づいた活動を実施していくことは非常に有効だと思いました。ありがとうございました。

委員

どのような事業を行っているかわかっていなかったのですが、結構いろいろなことをやっているなと思いました。

周知に関しては、鎌倉市ワクチン接種の LINE ができたので、それを活用して情報を周知できれば良いと思っています。

委員長

ありがとうございます。

今日は各団体の代表者がいらっしゃいますので、ぜひそのような団体を通じていろいろな活動を周知していくことができるのではないかと思います。その際に市から協力依頼がありましたら、よろしくお願ひしたいと思っています。

委員

市もいろいろ行っていたのですが、オンラインや AI を駆使しているとは思いますが、やはり実際診療をしていると高齢者の方が取り残されている感じがありますので、その方々の健康づくりをオンラインは難しいので何か良い参加方法を検討していただけたらと思います。

委員長

ありがとうございます。高齢者の方はオンラインに入りにくい、やはり対面も必要ということで、ぜひコロナ対策やコロナの感染状況を見ながら、対面の方も併せて行っていくのが良いと思います。

委員

先程、鎌倉市歯科医師会としては妊婦健診の受診率も多少上がってきているようで、まだ数値としては少ないのですが、市民健康課の方と協力しながら、もう少し受診率を上げられるように頑張っていきたいと思っています。

市の事業の周知について協力していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひします。

委員

いろいろお話をさせていただいて大変恐縮です。今日本当に皆さんの生の声、一次ソースを聞いて良かったと思うのと、やはり委員がおっしゃった通り、ハイリスクアプローチができてからのポピュレーションアプローチというのが非常に重要で、本当にいろいろな取り組みを行っていることを知り、人も時間もお金等のリソースが限られている中で、いろいろなことをされるのは大変と思います。ぜひ有識者の方々と何を一番フォーカスして行うべきかや、今手掛けている事業でそんなに効果がない事業については英断というか、一旦やめてしまうというのも事業を成長させるには有功と思いますので、その部分も含めて有識者の方々とお話を進めていただければと思います。ありがとうございます。

委員

資料2を見ますと、多面的に健康づくり計画に基づいたいろいろな業務をされていると思えました。コロナ禍の中の工夫も丁寧にされていると思えます。

ただ、たくさん行う程、委員がおっしゃったように疑問に思うところもあります。スクラップアンドビルドではないですが、整理をしていかないと、すべてがうまくいかなくなるような気もするので、そこは一緒に考えていく機会がこのような場で持てれば良いと思っています。引き続きよろしく申し上げます。

委員長

保健所の方の支援も引き続きよろしく申し上げます。

委員

たくさんのお仕事をされていることに、改めてありがたいと思います。

そんな中、幼稚園は協会として、各幼稚園の保護者の団体が要望書という形で、市にいろいろお願いをしている最中ですが、その中で保護者の皆様がおっしゃるのが、こういった事業がなかなか情報として届かないということと、あまりにもいろいろな場面で情報を流し過ぎていて、どこを見たらいいかわからないという意見が出てきます。それを広報としてどう伝えていくのか、どうこちらがキャッチするかというその辺がもう少しうまくいくといいなと思いました。

委員長

鎌倉市も市の広報等あると思うが、それ以外の周知の仕方等、考慮していただけたらと思います。

委員

自治連合会の方ですが、もう少し年配の人のものも考えていただきたいと思えます。町内会は町内会でまとめていかなければならないこともありますので、毎月行っておりますので、その時にも教えていただければと思います。よろしくご挨拶申し上げます。

委員長

ありがとうございます。ぜひ、大船の方ということであれば、商工会議所等、今回の会議等で知り合った団体にも相談してみる等、そのようなこともできるかと思えます。

委員

今日は、お疲れさまでした。ありがとうございます。

薬剤師会では、先程のトコトコアプリ、医療費の削減を見ながら、行ってい

るということで、薬剤師会では薬の削減に取り組んでいるところで、そういったところも一緒に検証していけると良いと思いました。いろいろ良い取り組みがたくさんあるので、やはり毎回出ていて思うのが、どのようにして周知していくのかということかとすごく感じています。

薬局は、お薬を渡すということだけではなく、いろいろこういった情報提供の場でもあると考えていますので、このトコトコのアプリや、産後のママケア、AIを使った特定健康診断について、ご高齢の方は一生懸命ウォーキングされたりするお話をよく聞きますが、薬局にいらっしゃる働き盛りの方に情報提供できると良いと思います。

薬局でもチラシやポスター等で啓発していければと思うので、ぜひ市からそういったものをいただければ、薬剤師会の方で、全ての薬局で掲載していけたらと思います。

委員

この計画の9ページを見ていただくと、鎌倉市の高齢化率がわかります。要は、日本の中で先を行っている市であり、もう一つ言うともうすでに高齢化率が止まっているかもしれない。つまり、非常に高齢者から働き盛りの方、若者もいるので、バランスの良いサービス、健康対策が必要です。我々がすることは、日本ですごく先に行くことだと思うので、そこを一緒に考えることができたらと思います。

そういう意味でフェーズのバランスやハイリスクアプローチ、必要なところを厚くする等、何か考えていただけると良いと思います。

委員長

ありがとうございます。確かに高齢化が進んでいるが、鎌倉市も地域的に広く、地域の特性みたいなものも少しあるのかと思います。

委員

ありがとうございました。私達、栄養士の団体なので食生活、食育に関するものをお伝えしていくという立場だと思うので、貴重なお話をありがとうございました。

栄養士会では今年度から、噛むことから始める健康づくりということで、このような小学生向けパンフレットを作らせていただき、鎌倉市内の小学校全児童向けに配布させていただきました。また、この内容に合わせて鎌倉保健福祉事務所の歯科衛生士の方をお招きした形で初めてオンラインで児童と保護者相手の講習会を設けました。また今日課題もいろいろ伺ったところなので、鎌倉市の健康づくりに協力できるような事業をこれからも行っていきたいと思うので、よろしくお願い致します。

委員長

ありがとうございます。先程、離乳食のビデオ等があったのですが、シラスが出てきました。鎌倉は漁港もありますので、ぜひ地元の食材等を活かした食育の教材にもなるかなと思いました。

委員

拝見しますと、市長部局の各課、教育委員会の各課で本当にさまざまな事業を行っています。そして、今日の委員会も各団体の方がお集まりになっていて、この辺が大事なことと思います。計画の中にみんなのできるということがあって、健康づくりに関する情報発信する、それらの情報をみんなで共有する、自分の身体と心に意識を向けるとあるが、そのような部分を各団体あるいは関連各課で発信していくが、何を発信するのかというのが大事だと思っています。

特に、20代、30代の方は民間スポーツ施設等、民間のところに行っている方がいます。ところが、市が行うものはチラシにしてもポスターにしても市の行政センター等、そういうところを中心に広報しているので、なかなか手が届かない状況が続いていると思いました。

皆さん、鎌倉市みんなが健康で明るく楽しく暮らせるように頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

委員長

ありがとうございました。

時間もかなり過ぎてしまいましたので、議題（4）その他について事務局からお願いします。

事務局

すみません。その他に行く前に、先程、委員からご質問ありました歩数の件ですが、今確認しましたら、65歳以上というところが抜けていて、健康日本21第二次の目標設定で、65歳以上は男性が7,000歩、女性が6,000歩というのがあり、うちの方のデータも65歳以上の方を対象として、それだけ達成しましたという形になっていました。

言葉足らず申し訳ございませんでした。

事務局

今後のスケジュールについて説明いたします。次回の委員会は3月25日（金）18：30～です。基本はオンライン開催といたしますが、オンライン参加ができない場合にご来場いただく会場については現在調整中ですので、また改めてお知らせをさせていただきます。今回と同様に開催前に、開催通知や資料等お送りさせていただきますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

委員長

今回も大変、たくさんの資料を準備していただきありがとうございます。

たぶん、なかなか目を通す時間が不足、大変なところもあると思いますが、事前に送付していただいて、また目を通していただけたらと思います。

今日は、時間を超過しておりましたが、遅くまで皆さんご参加いただきありがとうございます。

ぜひ、今日伺った印象ですと、やはり横の繋がりもかなり大事とおもいますので、なかなか対面は難しいですが、オンラインでも意見をいただいて、横の繋がりができればと思います。

連絡先等は事務局に聞いていただけたら、それぞれの団体の連絡先を教えてくださいたいと思いますので、事務局に連絡していただけたらと思います。

本日はありがとうございました。令和3年度第1回鎌倉市健康づくり計画推進委員会を閉会します。コロナの心配な面もありますので、対策も続けて行きながら、また3月にお会いしたいと思います。

委員

すみません。1件質問があるのですが、時間的にはこの時間ですか。もう少し早く始めることはできないですか。

委員長

委員でご意見ありますか。たぶん医師会や歯科医師会の先生、薬剤師の方の都合が一番と思うのですが。

委員

あらかじめ、わかっていたら大丈夫だと思います。調整します。

委員

私も、あらかじめわかっていたら、早い時間でも対応できます。

委員

私の方も大丈夫です。

委員長

はい。そうしましたら、先生方、少し早い時間でも事前にお知らせいただけたら可能ということで、事務局の方で調整等をしていただけますか。

事務局

はい。また日程調整改めてさせていただきまして、もう少し早い午後の2時3時や、午前中であれば10時くらい等、その辺りでいくつか候補を上げて皆様にお聞きしたいと思います。メールと手紙等でお送りさせていただきますので、よろしく願い致します。

委員長

では、本日はどうもありがとうございました。